

私たちは、自閉症という障害をもつ人たちが、彼らなりに社会の一員として自主自立をめざし、豊かな人生を生き抜くよう共に道を拓いていくことを目的としています。

A J U の 里

令和3年10月26日 発行 / 第105号

発行人 **A J U**
東海身体障害者団体定期刊行物協会
名古屋市中区丸之内3-6-43 みこころセンター4F

編集 社会福祉法人 **檜の里**
〒510-1326 三重県三重郡菰野町杉谷 1573
電話 (059) 394 - 1595
編集責任者 山田 勉
購読料 1部 100円
(会員の購読料は会費に含まれています)

元気に夏を楽しむ あさけ学園



B棟の創作活動



C棟からの残暑お見舞い



あさけホームでのかき氷

あさけ学園が開所四十周年を迎えられましたこと、誠にありがとうございます。

私は大学生のとき、ゼミで自閉症の子どもの療育に携わっていました。卒業後の就職先として漠然と障がいのある人に関わる仕事をしたいと考えたのであさけ学園を知りました。

初めは夏のキャンプに参加するなど、ボランティア活動で学園に通い、その後、職員となつて七年間を学園で過ごしました。

あさけ学園は設立当初から「障がいのある人たちが暮らす施設」というよりも「どこにでもある普通の家」としての意識を強く持っていました。

そのため、当時から地域住民の一員として地区の運動会や子ども焼きなどの行事に積極的に参加していました。共に笑い、共に汗をかき、お互いにその存在を認め合うこと、それを当たり前のこととして、ずっと積み重ねてきていると思います。

私は毎朝、リュックを背負って汗を拭きながら朝日に向かって一生懸命に歩いていく女性を見かけます。彼女は学園での生活を経て、地域でアパートを借りながら生活をしているひとりです。



「家」

～故 石丸晃子氏を偲んで～

社会福祉法人 菰野町社会福祉協議会 事務局長 中 島 寛

の発展に大きく寄与された故石丸晃子氏は生前、「障がいのある人の存在は、社会の連帯や私たちの生き方を厳しく問いかける」と話されていたことを記憶しています。

ひとりの人間として当たり前の生活を送りたい、その願いは、障がいの有無に関係なく個々の心の中に同じように存在します。私たちが悩んだり苦しんだり楽しんだりするのと同じように、障がいの感情があります。ただそれを、周囲に分かるような形で表現することが苦手なだけなのだと思います。

しかしその願いや感情を、障がいがあることを理由に周囲から理解されないとするれば、それはとても悲しいことであり、個人や社会が未熟であることを示しているとも言えるのではないのでしょうか。

五年前、相模原市の障がい者施設で痛ましい事件が起こったとき、私は故石丸氏の言葉が真っ先に思い出されました。障がいのある人を理解することの難しさと、その延長上にあるであろう障がいのある人となない人が地域で当たり前に暮らすことの難しさを改めて感じました。

福祉はノーマライゼーションからインクルージョンへ移行し、その実現に向けた取り組みが進められています。故石丸氏の言葉を「共に生きる社会の実現は」と置き換えて考えてみたときに、そこから突き付けられる問題は、より広く、より深いものを感じます。

それでも、あさけ学園は四十年にわたる豊富な経験を生かしてこの難題を乗り越え、お互いを認め合い、助け合いながら、自分らしい生活を送ることが出来る「家」として、あり続けてほしいと願っています。

学園の職員さんや地域のみなさんに助けられながらの生活だとは思いますが、毎朝仕事に向かうその姿を見ると、彼女もまた地域住民の一員として彼女なりに一生懸命生活していることが容易に想像でき、嬉しく思います。

あさけ学園設立の中心的役割を果たし、理事長として長年にわたり学園

しんだり楽しんだりするのと同じように、障がいの感情があります。ただそれを、周囲に分かるような形で表現することが苦手なだけなのだと思います。

しかしその願いや感情を、障がいがあることを理由に周囲から理解されないとするれば、それはとても悲しいことであり、個人や社会が未熟であることを示しているとも言えるのではないのでしょうか。

五年前、相模原市の障がい者施設で痛ましい事件が起こったとき、私は故石丸氏の言葉が真っ先に思い出されました。障がいのある人を理解することの難しさと、その延長上にあるであろう障がいのある人となない人が地域で当たり前に暮らすことの難しさを改めて感じました。

福祉はノーマライゼーションからインクルージョンへ移行し、その実現に向けた取り組みが進められています。故石丸氏の言葉を「共に生きる社会の実現は」と置き換えて考えてみたときに、そこから突き付けられる問題は、より広く、より深いものを感じます。

それでも、あさけ学園は四十年にわたる豊富な経験を生かしてこの難題を乗り越え、お互いを認め合い、助け合いながら、自分らしい生活を送ることが出来る「家」として、あり続けてほしいと願っています。

元気に夏を楽しむ



C棟 ポストカード用の撮影



あさけホーム 花火を楽しむ



あさけホーム 冷菓を味わう



D棟 家族に元気を届けます



C棟 満面の笑顔



あさけホーム ゆったりティータイム

学園だよりⅠ

三年を跨ぐ「新型」コロナ禍にあって、入所やグループホームの利用者は、今年も家庭帰省のままならない夏期休暇を過ごすこととなりました。ワクチン接種が進む一方で、この夏には新型コロナウイルス陽性者の数が最大のピークを迎え、あさけ学園においても、三重県からの「持ち込まない、ひろげない、倒れない」の予防対策をさらに徹底して進めてきたところです。

これまで、四季ごとに実施してきた一週間ほどの長期帰省も、普段の週末帰宅と同じく通常は土曜日から始まりです。そのためか、この日に向けた落ち着かない気持ちをさまざまな手段で表現してくる

利用者も少なくありません。

例えば、自らシートの片付けなどの外泊時の準備を始めたリ、場にそぐわない言葉や行動を示し、時には繰り返す。

また、現在は三重県内に住む方のみに限られています。が、唯一家族に会える面会の日曜日の朝になると、家族と会う時のためのマスクをして起きてくる利用者もいます。

現在のコロナ禍の状況や先に見通し、この中でどのような過ごし方なのか、前もって担当の支援者が一対一でできる限り本人とうまく話ができるよう努めています。再び次の週末が近づき本人から確認の言動などがあれば、繰り返し丁寧な説明を行なっ

支援と連帯の輪

93

あさけ学園及びグループホームの利用者への一回目の新型コロナウイルスのワクチン接種が、この前八月十九日（木）ワークセンターひのき第二作業所のホールで行われました。

接種を受けた人は、利用者が五十五名、職員が五名の計六十名。予定通り午後二時に始まり順調にはかどって、午後三時半には終了しました。そばアレルギーのある利用者等若干名は接種後三十分の経過観察。その他の人たちは十五分の観察で、特に問題もなく終えることができました。

この接種が可能になったのは、日頃大変お世話になっ

てきました。

しかしながらその反面では、先にも記したように思いますが、誰も外泊する利用者がおらず、普段と同じくみんながいることで、以前は長期帰省時や週末に不安定となっていた方に顕著な変化が認められなくなった例もあります。

このお盆の期間中、幸いと言って好いのか、三重県では例年の酷暑はほどほどなく、逆に日差しが欲しくなるような天気が続きました。こうした最中、いつも一緒に暮らすみんなとの夏期休暇の様子について、第一〇三号「希望がもてる未来にむけて」に掲載したお正月の企画に引き続き、一面と二面の写真に添えてお届けした次第です。

への参加、水かきやお菓子作り、ゆつたりとティータイム、家族に送った残暑見舞いのカード作りや写真撮影のポーズを決めています。その他に、テレビでオリンピックを観たり、暑さや密な接触を避けてのウォーキング、ドライブ、散髪に出かけることもありま

利用者の健康問題

42

あさけ診療所所長 小西眞行

行っている中で、接種そのものには慣れていきます。自閉症の人は、パターン通りのやり慣れた事には、さして不安を感じないのですが、新しい慣れない事には人一倍不安になり混乱します。

今回の新しい事といえば、

師さん二名、ワクチン管理には薬剤師さん一名、必要な器物の運搬にも二名。問診には医師の私が加わりました。その他、学園側の職員もいくつかの役割を受け持ちました。

学園の利用者は、今までもインフルエンザの予防接種を毎年秋から冬にかけて二回

観察を続
けました。

しかし接
種後に腕の痛み、発熱や頭痛、感冒のようなだるさ

三週間後の九月九日（木）午後二時から行われました。利用者

びを見つめながら、生活全般にわたってコロナ後の構想を

温めていければと願っています。

令和三年度 後援会費納入のお願い

社会福祉法人 檜の里後援会

会長 飯田 俊司

社会福祉法人檜の里後援会活動につきましては、日頃より多大のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

私たちは自閉症という障害を持つ人達が、彼らなりに社会の一員として自主自立を目指し、豊かな人生を生き抜くよう共に道を拓いて行くことを目的としています。

この趣旨に賛同して会員となつてくださいました皆様方には、今年度も引き続き格別のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

同封の郵便振込用紙に必要事項をご記入の上ご送金頂きたく存じます。

なお、再度のお願いになりますので、行き違いで既にお振込の節は、悪しからずご容赦下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

年会費

正会員 一〇二万円以上
賛助会員 一〇二万円

（何口でも結構です）

ご連絡先は「あさけ学園」
TEL 059-394-1595です。



び声をあげる人もありません。二回目も心配は接種後の副反応でしよ。自閉症の人たちは、自分の心身に起こった不具合を支援員に訴えることは大の苦手です。そこで各棟やグループホームの支援員は

はじめ職員の皆様には二度にわたって大変お世話になりました。本当にありがとうございます。

あさけ学園のお客様

令和三年五月一日から
令和三年八月三十一日まで
（敬称略）

- ▽金森まさ子、古川久美子
- 市川りの、蛭巻香澄、
- 前野帆乃伽、宮下亜優菜
- （高田短期大学）
- ▽伊藤和之、伊藤あかね
- 鈴木身知、今井有美
- （希望の集ひなが）
- ▽山本麻美、水谷さくら
- 佐藤瑠菜
- （名古屋女子大学短期大学部）

メンバー紹介

- 社会福祉施設功労者として菰野町社会福祉協議会長から表彰されました。
- 【令和二年度】
矢田万貴、伊藤明子
- 【令和三年度】
小久保智子、小出次郎
小森 英子

○社会福祉法人檜の里に永年にわたって勤続したとして表彰されました。

- 【令和二年度】
西野 公、鈴木秀明
太田好美
- 《十五年勤続》
奥山八寿子
- 《十年勤続》
小久保智子、小出次郎
小森英子、北山俊介
石崎真由美、廣井慧里
- 【令和三年度】
永年雅晴
- 《二十年勤続》
小西眞行・松井ひとみ
- 《十五年勤続》
奥山千津子、井戸久美
- 《十年勤続》
赤塚雅子

永きにわたり、あさけ学園に尽力された功績をたたえらるることに、感謝申し上げます。

【編集部】

学園だよりⅡ

テレビマガジンを卒業したAさん

テレビマガジンはAさんが定期購入していた児童向けのテレビ情報誌です。

一九七一年創刊で、現在、公式には三歳から五歳までの未就学児童向けとして刊行されています。ウルトラマンシリーズ、仮面ライダーシリーズ、スーパー戦隊シリーズ等がメインを飾り特撮作品の記事が大半を占めています。本人は入所前からずっと購入しており両親に聞いてみても「正

確に購入を開始した時期は分かりません」、本人からも「昔」としか聞き取れませんでした。今の年齢には内容が伴わないので気になつてはいたものの、毎月楽しみにしていることもあり何も出来ないまま買いつづけてきました。

売切れた事を本人に伝え、彼の歴史上で大きな転換を迎えるやりとりがありました。

「そうか」と一度は受け入れたような返事をしましたが、しばらくすると「どうして売切れたのかな」と聞いてきました。

私「Aさんはいつからテレビマガジンを買っているの？」

Aさん「昔から。」

私「テレビマガジン面白いよね、子ども喜んだらうね」というやりとりがしばらく繰り返されました。さらに状況を理解してもらおうと、言い方を変えてみました。

私「Aさんが買おうとしていた一冊をどこかの子どもが買えて良かったね。」

それ以上踏み込むつもりはなかったのですが、「来月号はどうする？」と聞く

と、はつきり言いました。

そんな矢先に、主任職員から一冊の図鑑を紹介されました。学研の「スーパースター」という立派な図鑑で、値段も四千円近くします。本人に伝えると興味を示し、すぐ購入に至りました。掲載されている情報の専門性、所有する満足感で、Aさんはとても自慢に思っているようです。

喧しかったセミの鳴き声もいつしか消え、吹く風に秋を感じるこの頃です。今年の夏は、早い梅雨明けに続く猛暑、前線停滞によるお盆前後の長雨、新型コロナウイルスデルタ株の爆発的な感染拡大に伴うまん延防止措置・緊急事態宣言の対象地域の拡大、オリンピック・パラリンピック二〇二〇大会の一年遅れの開催…今年は何もかも異常づくめの八月でした。

前回のオリンピック東京大会は五十七年前に開催されてから十七年後に、あさけ学園が開所されて今年

編集後記

六月で満四十年になりました。昨今よりのコロナウイルス情勢は収束のめどもなく、周年記念の企画行事も立てられません。

あさけ学園の新型コロナウイルス感染症予防は昨年三月からの家庭帰省・外泊・外出の中止、面会日時の指定、入館・帰宅時の検温、マスクの着用等の『持ち込まない』対策を利用者・職員・保護者が一体となり実施しています。

今号では、新型コロナウイルス接触種も進み、コロナ禍の中でも、あさけ学園利用者の『元気に夏を楽しむ』日常生活を特集しました。

【保護者 市川 潮】

いんどうは

このコーナーは、インタビュー形式ですが、今回は社会福祉法人檜の里監事の渥美英人さんに投稿いただきました。

【編集部】

みなさんこんにちは。本年度から社会福祉法人檜の里の監事を務めさせていただいております渥美英人と申します。

「僕が亡くなる前、病床でこんな事を感じたそうです。『僕は病気になったので、毎日の生活の中で、気が付いたら、ありがとう、ありがとうばかり言っている。でも、僕もありがとうって言うて欲しい。ひよつとしたら認知症のお爺さんも、重い障がいを持った人もありがとうって言うて欲しいじゃないかな？』



障害者総合相談支援センター
あい 基幹相談支援センター
あつみ ひでと
渥 美 英 人

私は長年、鈴鹿市の社会福祉協議会に在職し、地域福祉の現場で働いてきました。ボランティアさんや、地域住民の方々との協働により

地域福祉の大切さを何度となく感じる事ができました。私が大好きだった歌手（故人）で河島英五さんがいます。

「彼が亡くなる前、病床でこんな事を感じたそうです。『僕は病気になったので、毎日の生活の中で、気が付いたら、ありがとう、ありがとうばかり言っている。でも、僕もありがとうって言うて欲しい。ひよつとしたら認知症のお爺さんも、重い障がいを持った人もありがとうって言うて欲しいじゃないかな？』

「僕が亡くなる前、病床でこんな事を感じたそうです。『僕は病気になったので、毎日の生活の中で、気が付いたら、ありがとう、ありがとうばかり言っている。でも、僕もありがとうって言うて欲しい。ひよつとしたら認知症のお爺さんも、重い障がいを持った人もありがとうって言うて欲しいじゃないかな？』

「僕が亡くなる前、病床でこんな事を感じたそうです。『僕は病気になったので、毎日の生活の中で、気が付いたら、ありがとう、ありがとうばかり言っている。でも、僕もありがとうって言うて欲しい。ひよつとしたら認知症のお爺さんも、重い障がいを持った人もありがとうって言うて欲しいじゃないかな？』

「僕が亡くなる前、病床でこんな事を感じたそうです。『僕は病気になったので、毎日の生活の中で、気が付いたら、ありがとう、ありがとうばかり言っている。でも、僕もありがとうって言うて欲しい。ひよつとしたら認知症のお爺さんも、重い障がいを持った人もありがとうって言うて欲しいじゃないかな？』

ようこそ「あさけ」へ あさけ学園での実習を終えて

高田 短期大学



市川りの私は自閉症などについて、ほとんど知識がなく不安でしたが、職員の方が色々なことを詳しく教えて下さり安心して実習に取り組みすることができました。

この実習で声掛けや援助など沢山のことを学び経験することができました。この経験をこれから活かしていきたいです。



障害者施設と聞き、最初はどのような方がいるのか何をされるのか分からず不安がありました。

しかし、実習を行っていると不安な気持ちもなくなり、利用者の方々と関わっている時間がとても楽しく感じました。実習をさせて頂き、声掛けの仕方や接し方等、中々学ぶ事ができない貴重な体験をさせて頂き、とても充実した実習になりました。ありがとうございました。

名古屋女子大学短期大学部



不安が多い中始まった実習でしたが、施設の職員の方々と始め、B棟の皆さんが温かく迎えてくださり、とても充実した十二日間を過ごすことができました。

普段は障がいを持たれている方と接する機会がほとんどなく、どのように関われば良いのかを不安に思っていました。利用者の方々と家族のように温かみを持って接している職員の方々の姿がとても印象に残っています。



私がこの実習で一番印象に残ったことは、私たちと同じように一人一人個性が違ったり、障がいの特性も違ったりすることです。

始めは声かけが一番大変でしたが、少しずつ、私に話しかけてくれる利用者や私の声かけに反応してくれる利用者もいて、とても嬉しく充実した二週間になりました。